委員会レポート

委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、各常任委員会は第９回定例会において報告しました。
※内容は要約されています。報告書の全文はホームページでご覧になれます。

総務産業常任委員会 調査報告

町発注工事の進捗状況について

調査日　令和４年10月５日

　資材高騰や物資不足は国際情勢の変化により本年は大きく変化したことは周知の事実である。町発注の公共工事は入札により各業者はその応札を以って受注しているが、激変する経済情勢に、一部は影響を受けたものの、概ね問題なく経過している報告を受けた。

　入札行為を行い、工事を遂行するにあたり、激変する経済には一定の理解は必要であるが、応札する側にも責任が発生する。材料等については発注時点において確保は可能と考えるが、実際に施工する時点におけるガソリン等の燃料の高騰は、多少の幅はあるものの、建築現場はもとより、特に土木工事現場においては大型重機や運搬車両等に直接響いてくる。今後これらについては、関係機関とも協議を重ね、準備が必要と思われる。

　町の公共工事の発注・受注に際しては、同一業者が複数受注する際に同一現場代理人であっても、施工する時期や場所によっては法的に問題はない。しかしながら公共工事の本来の目的を考えると、その品質を担保する上で、清水町として一定の考え方が必要と思われる。

　地場企業の発展は働き場の増加を意味し、活力の礎と考えられる。

　発注業務は、今後役場全体で考える必要がある。

　また、役場内の技術者が全体的に少なくなっており、負担が大きくなる傾向が見える。

　老朽化する施設や更新が今後増えるインフラ整備に備え、計画的な人事は今後必要不可欠になることを指摘する。

厚生文教常任委員会 調査報告

町内会の現状と今後について

調査日　令和４年９月30日

　生活上の困りごとについて、行政が全ての町民個々に向けて対応することは不可能である。同じ区域に住む住民同士が、お互いの協力によって解決できるのが町内会の大きな役割であり、また、会員同士のコミュニケーションによって、日常の生活に安心感と絆が育まれるのだと思う。

　町内会よりも大きな区域の防災、防犯、環境整備、地域福祉の向上などについては、かねてより活動してきた各種団体が大きな役割を果たしてきており、それぞれの団体は住民生活の様々な課題に、行政と共に解決に当たってきている。時代の変化と共に各団体の役割や取り組む事業にも変化があると思われるが、現在の各団体の活動や役割についての理解が町民に広がっていないことが、町内会にとって負担金が多いと感じる要因になっているのではないか。また、各団体が取り組む事業は、町内会からの支えによって運営されるのが本来なのか、行政が幾らか支援を行う余地はないのか、見直す時期に来ているのではないか。

　町内会は会員の減少が進む中で、事業への参加者減少や役員のなり手不足、各種団体への負担金の重さなどが大きな不安材料となっている実態が明らかとなった。

　加入戸数の減少、交流の停滞、役員のなり手不足などの課題は、多くの町内会等で共通している。各世帯の高齢化が進めばより地域での見守りなどのつながりが重要になり、子育て世帯にとっても心強いものとなる。町内会等が自主的な活動を維持できるように、行政は町内会が抱える悩みや課題に向き合い、効果的な解決策を図ることを求めたい。